

氏名	李志嬉
授与した学位	博士
専攻分野の名称	保健福祉学
学位授与番号	博甲第94号
学位授与の日付	平成26年3月24日
学位論文の題目	日韓の在宅高齢者の健康関連ライフスタイルを規定する要因に関する基礎研究
学位審査委員会	主査 中嶋和夫 副査 山口三重子 副査 高橋 徹

## 学位論文内容の要旨

本学位論文は、高齢者の健康の維持・増進に資する東アジア型健康増進モデルの開発に関する基礎資料を得ることをねらいとして、日本と韓国の在宅高齢者を対象に、健康関連コミットメントが健康管理自己効力感を通して健康関連ライフスタイルに影響すると仮定した演繹的仮説（因果関係モデル）の実証的な検討を目的とした。この目的を達成するために、本学位論文では、まず、研究課題1として、コミットメント理論を健康に適用し、高齢者の「健康関連コミットメント」に関する測定尺度の開発を行い、次いで研究課題2として、健康関連コミットメントが健康管理自己効力感を介して健康関連ライフスタイルに影響するという因果関係モデルを構築し、構造方程式モデリングによるその実証的な検討を行なった。

研究課題1においては、韓国のA道とC道に在住し、かつ老人福祉施設を利用する65歳以上の在宅高齢者328名を対象に、無記名の質問紙調査を実施し、健康に関連した「情緒的コミットメント」「規範的コミットメント」「持続的コミットメント」を第一次因子、「健康関連コミットメント」を第二次因子とする3因子二次因子モデルからなる「健康関連コミットメント測定尺度」の構成概念妥当性と信頼性を検討した。その結果、前記因子構造モデルのデータへの適合度は統計学的に許容できる範囲にあり、概念的次元性を備えていることから構成概念妥当性が支持され、また加えて、信頼性係数も良好な水準であったことから数量的にも次元性が支持されることを明らかにした。

研究課題2においては、日本のA県B市の高齢者支援センター、韓国のA道B市の老人福祉施設に登録されている65歳以上の在宅高齢者を対象に（日本：500名、韓国：500名）、無記名の質問紙調査、すなわち調査内容を対象者の基本属性（年齢、性別、家族構成、最終学歴、婚姻状態、主観的健康状態）、健康

関連コミットメント、健康管理自己効力感、健康関連ライフスタイルで構成した調査を実施した。研究課題1で開発した「健康関連コミットメント測定尺度」等の構成概念妥当性の交差妥当性の検討の後、健康関連コミットメントが健康管理自己効力感を介して健康関連ライフスタイルに影響するという因果関係モデルのデータへの適合性と変数間の関連性の程度を構造方程式モデリングで検討した。その結果、日本と韓国の高齢者に共通して、健康関連コミットメントを高く認知している高齢者ほど健康管理自己効力感が高く、またさらに健康管理自己効力感が高い高齢者ほど健康に良いライフスタイルを継続的に実践していることを明らかにした。

以上の結果から、高齢者が健康関連ライフスタイルを維持・増進するには、健康関連コミットメントおよび健康管理自己効力感を中心とした臨床的なアプローチの開発の必要性が示唆された。すでに日本と韓国では、生活習慣の改善などを目的に健康日本21やHealth Plan 2020などを基礎に健康増進事業が保健所や保健センターを中心に行われているところではあるが、マンパワーの不足、具体的な運営・指導法が分からない、施設および設備が整っていないなどといった問題点が指摘されていることを勘案し、本学位論文では、日本と韓国は各文化や地域の特性を考慮しつつも、健康関連コミットメントや健康管理自己効力感を重視したプログラムの開発とその導入が喫緊の課題であると推察し、その方策についての提案を試みた。

### 主業績

No.1	
論文題目	日・韓在宅高齢者における健康関連コミットメントおよび健康管理自己効力感が健康関連ライフスタイルに及ぼす影響
著者名	李 志嬉 實金 栄 太湯好子 中嶋和夫
発表誌名	日本保健科学学会誌, 16(3),113-122,2013

### 副業績

No.1	
論文題目	韓国の高齢者における健康関連コミットメントおよびライフスタイルと生活機能の関係
著者名	李 志嬉 中島 望 中嶋和夫
発表誌名	韓国ケアマネジメント研究, 7, 155-176, 2012

### 関連業績（3件以内）

No.1	
論文題目	地域高齢者の ICF に基づく機能的・構造的統合性の測定尺度の検討
著者名	太湯好子 中島 望 川崎 緑 李 志嬉 桐野匡史 中嶋和夫
発表誌名	岡山県立大学保健福祉学部紀要, 17(1), 7-17, 2010
No.2	
論文題目	在宅高齢者における健康生活習慣と機能的・構造的統合性の関係
著者名	中島 望 李 志嬉 桐野匡史 川崎 緑 太湯好子 中嶋和夫
発表誌名	厚生の指標, 59(11), 15-22, 2012
No.3	
論文題目	在宅高齢者の健康管理自己効力感と健康生活習慣の持続に関する韓日比較研究
著者名	李 志嬉 中島 望 太湯好子 中嶋和夫
発表誌名	国際高麗学, 14, 337-352, 2012

## 論文審査結果の要旨

本学位論文では、コミットメント理論を健康場面に応用し、健康関連コミットメント尺度を開発したうえで、開発された健康関連コミットメントと健康管理自己効力感および健康関連ライフスタイルとの関係を、構造方程式モデリングを用いて実証的に検討している。

研究の結果は、日韓両国の高齢者において健康関連ライフスタイルに健康関連コミットメントが健康管理自己効力感を經由して影響していることを明らかにしている。

以上の結果は、学問的には従属変数を健康関連ライフスタイルとしたとき、ストレス認知理論が支持されることを意味すると同時に、文化や地域、国に問わず健康関連コミットメントや健康管理自己効力感が健康関連ライフスタイルを規定する共通要因になりうる可能性を示唆するものである。考察では、両国の高齢者の健康に良いライフスタイルを継続させるためには健康関連コミットメントや健康管理自己効力感の向上を企図した積極的な介入の必要性が議論されている。

以上の結果より、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（保健福祉学）の学位論文として価値あるものと認める。